



文化庁主催「発掘された日本列島2017」展に根戸船戸遺跡 1号墳出土遺物が展示されます。

●文化庁主催「発掘された日本列島2017」展に根戸船戸遺跡1号墳出土遺物が展示されます。

文化庁主催の「発掘された日本列島2017」展に、我孫子市白山出土の根戸船戸遺跡1号墳出土遺物が展示されることになりました。平成29年6月3日より7月23日まで江戸東京博物館での展示を皮切りに、全国5会場（東京・青森・三重・愛知・長崎）で巡回展示されます。

出展品としては、「頭椎大刀（かぶつちのたち）」（全長105センチ、1本）、大刀1、鉄鏃束、銅製耳飾り、勾玉などが挙げられます。とくに頭椎大刀は、鉄の大刀に金銅製の飾り金具を取り付けたもので、刀を握る柄（つか）の先端に取り付けられた「にぎりこぶし型」の装飾からこの名がつけられたようです。

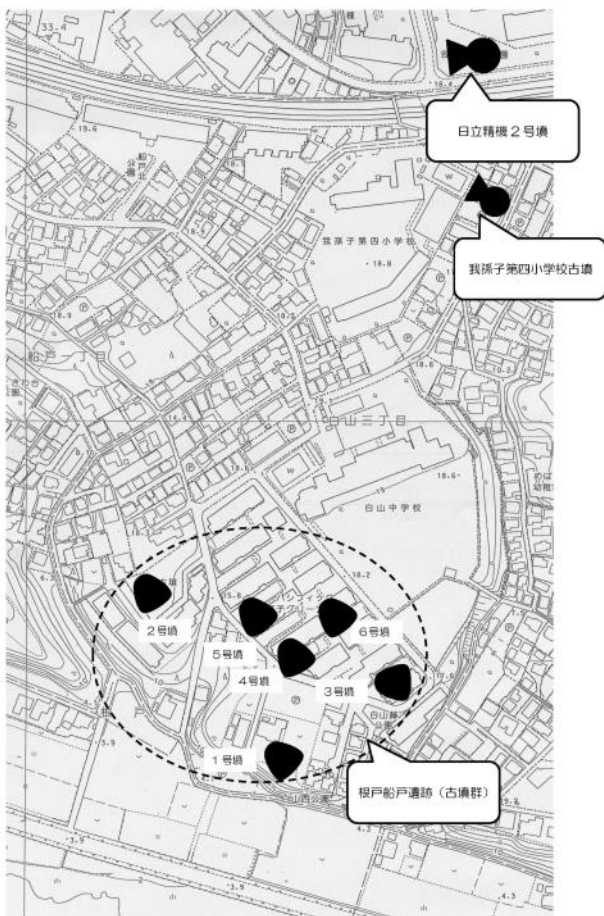
根戸船戸遺跡1号墳は手賀沼を見下ろす丘の上に作られた、長さ約35mの古墳（前方後円墳がくずれた形態＝ダルマ型）で、周辺に展開する6基の古墳（根戸船戸遺跡2～6号墳）と合わせて7世紀初頭と考えられています。頭椎大刀は大刀3本、鉄鏃約120本、銅製耳飾り、勾玉などとともに横穴式石室床面から出土したもので、埋葬された人物が愛用していたものと想定されます。

頭椎大刀は、古墳時代終末期の6世紀末から7世紀初頭の東日本を中心とした古墳から出土しており、大和王権が東日本に影響力を及ぼす過程において、地域の有力な豪族層に権力の象徴として下賜されたとされ、刀の豪華さからみて、実用ではなく儀仗用であったと考えられています。

頭椎大刀は、千葉県内でも本例を含め12例の出土が知られていますが、木更津市や山武市、香取市など房総を代表する有力な豪族（国造）の古墳から出土するものが多くを占めます。我孫子には4世紀末に水神山古墳（前方後円墳、東葛地区最大）があるものの、傑出した古墳はなく、根戸船戸遺跡1号墳は全長約35mと、古墳の規模的には小さな部類であり、なぜここから大和王権から下賜された大刀である頭椎大刀が出土したのかは謎です。古代史、地域史を考える上で重要な発見となりました。

また、今回、市民から寄付された「古墳時代当時のレプリカ（復元品）」も展示されることになりました。出土遺物の横に古墳時代当時の光り輝くレプリカを並べることにより、来館者は古代の技術に思いをはせることができると思います。レプリカの作成にあたっては、頭椎大刀の出土を知った匿名の市民が「レプリカであれば、展示場所を選ばずにより多くの人々に我孫子の歴史を知っていただけるのではないかと」として、出土状態のレプリカ、古墳時代当時のレプリカ、現物を収めておく保管用ケースとともに我孫子市に寄付をいただいたものです。レプリカ作成にあたっては専門の業者を選び、文化財審議委員の助言を受けながら慎重に作成を行ないました。現物の頭椎大刀が痛まないように、3Dスキャナで情報を取り、3Dプリンター樹脂製の元型を作っています。古墳時代当時のレプリカはさらにサビや鞘の腐食などがなかった状態を想定して復元したものです。古墳時代の遺物を現代の技術で復元したもので、次世代に語り継いでいくためにも重要な取り組みとなりました。

根戸船戸遺跡の遺物は全国を巡回し、来年3月以降、当市に戻ってきます。時期をみて市民向けに企画展、講演会などを行いたいと考えています。



根戸船戸遺跡の古墳分布



根戸船戸遺跡1号墳の発掘調査



頭椎大刀出土状況



出土状態のレプリカ（上）と古墳時代当時のレプリカ（下）

【問い合わせ】

我孫子市生涯学習部文化・スポーツ課

担当 辻

☎ 04-7185-1583 (内線840)